

< 目次 >

- 1 【学社連携】地域をあげての復興教育を！〔前編〕
 - 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 3 【編集後記】あつしのひとりごと
-

★教育振興運動イメージソング「Hand In Hand」を聴くことができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/HANDINHAND.html>

★「Hand In Hand」コード譜をダウンロードすることができます。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/handinhandkoudo.pdf>

1 【学社連携】地域をあげての復興教育を！〔前編〕

『100回逃げて、100回来なくても、101回目も必ず逃げて！』
昨年7月、釜石市唐丹町に建てられた石碑に刻まれているこのメッセージは、釜石市立唐丹中学校3年生の上野葉璃さんが「家族が逃げようと言ってくれたから助かった。ひとりで家にいたら・・・」とあの日を振り返り、自戒の念を込めて考えたものです。石碑には、上野さんのほか、地元の小中学生ら94人の言葉が刻まれ、明治三陸大津波（1896年）を伝える碑の隣に並んでいます。

また、大槌町立大槌中学校では、全国からの支援に感謝し、生徒たちが交流しながら復興への思いを発信する「語り部プロジェクト」が行われています。今年1月には、東京で開催された「先生のための防災教室」において、震災後の学校生活の様子を発表しました。大槌中学校の鈴木校長先生は「未来の大槌を担う子どもたちに、様々な経験を積んで欲しい」と言います。

今年度より各学校で取り組んでいる「いわての復興教育」は、“郷土を愛し、その復興・発展を支える人材の育成”を目的にしています。唐丹地区や大槌中学校のように大震災津波を伝え残す様々な活動が行われておりますが、これも地域を担う人づくりの活動です。「いわての復興教育」では命の大切さとともに、地域の一員として自分に何ができるかという意識を育てたいものです。

「いわての復興教育」では、家庭・地域に期待する効果として「過去の災害に向き合い、学校と連携した防災活動が推進され、家庭・地域で命を守る意識と技能を高めることができること」と「子どもたちが地域の活動に参加したり、貢献したりすることによって、家庭や地域とのつながりを深めることができること」をあげています。この効果は、教育振興運動に共通するものです。

今年度より教育振興運動においても、推進方針に「いわての復興教育」を位置づけ、各地域において学校と家庭・地域との協力体制を整え、地域総がかりで取り組むことを提唱しています。家庭や地域がすべきこと、一緒にやることで効果的なこと、学校が行う「いわての復興教育」を地域とつなげていくことを5者が話し合うことから始めましょう。

「いわての復興教育」は、津波の被害を受けた地域が取り組むものではありません。内陸の子どもたちも経験したことがない大地震で怖い思いをしました。また、内陸の子どもたちも、“郷土を愛し、その発展を支える人”です。地域を担う人材を育てるために、何をすべきかを学校と一緒に考えたいものです。

内陸部の盛岡市立向中野小学校では、地域・学校・家庭の連携による「スマイル・プロジェクト」を展開し、学校としての復興教育全体計画のもと、地域と連携しながら各学年の「復興教育」に取り組んでいます。

★盛岡市立向中野小学校「復興教育パンフレット」

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24mukainakano.pdf>

2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(教ちゃん) 今年度も、あと1か月ちょっとね。各市町村においても、今年度の運動の総括を終えて、次年度の方向性を検討する時期ね。

(振ちゃん) 「毎年同じ目標を掲げるのは、いつまでも定着していないことを意味する」・・・中村先生の言葉だったよね。

(教ちゃん) そうね。もし、定着していないのであれば、取組方法を変えていかなければいけないわよね。

(振ちゃん) そうそう。解決したら目標を変える、解決していないのであれば取組方法を変える・・・それをせずに、昨年と同じことをするから“運動のマンネリ化”になるんだよ。

(教ちゃん) 取り組む内容が変われば、それに応じて組織を変えることも必要だって松尾先生もおっしゃっていたわ。

(振ちゃん) うん、そうだね。組織ありき、活動ありき・・・ではなく、何のために運動に取り組んでいるのかということを考えないとね。

(教ちゃん) そう。そして、そのために、いろいろな取組をツールとして活用したらいいと思うの。

(振ちゃん) たとえば？

(教ちゃん) 地域の方が子どもたちの宿題を見守ったり、体験活動をしたりする「放課後子ども教室」は、地域による学力向上や地域交流の活動だし、地域の方が学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」も地域による学力向上や読書推進の活動だと思うの。

★一関市室根公民館の「学校支援会報」

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/24muronekouminkan.pdf>

(振ちゃん) 子ども土曜塾事業の小正月行事や読み聞かせ、図書館支援の様子が載っているけど、これって5者のうちの“地域の役割”だよな。

(教ちゃん) 同じ子どもに関わる活動なのだから、それぞれが別々の活動ではなく、課題解決のためのひとつの活動と考えればいいのよ。

(振ちゃん) 平成24年度岩手県教育振興運動推進方針にも、市町村の展開にあたっては「他の運動等との連動を図る」と位置づけているよ。

(教ちゃん) 平成25年度の推進方針は、3月1日に開催される県推進幹事会が終了しましたら皆様にお届けにします。少しお待ちください。

3 【編集後記】あつしのひとりごと

「おとうさんといっしょ」の放送が、4月から始まります。「おかあさんといっしょ」の誤りではなく、NHKのBSプレミアム（毎週日曜朝）で始まる新番組です。育児に積極的な男性を指す「イクメン」という言葉はすっかり定着してきましたが、子育て教育番組もやっと追いついたところでしょう。

「絵本は、親子のコミュニケーション・ツールです。お子さんと一緒に絵本を楽しみませんか？」ということをお伝えながら、絵本の読み聞かせに取り組んでいます。ソロ活動でおこなう「絵本ライブ」は、読み聞かせのほかにマジック、歌、体遊びや体操を織り交ぜた自称“ひとり・おかあさんといっしょ”。それを、“ひとり・おとうさんといっしょ”と言える日が近づいています。

3月23日（土）には、山田町大浦地区で絵本の読み聞かせをおこないます。平成23年度に続き2度目の大浦地区の訪問は、地域の読書ボランティアの方から声をかけていただきました。震災後、活動を停止しているとのことですが、この訪問が活動再開のきっかけになればと思っています。

沿岸地域を訪問する時は、子どもたちに楽しんでもらうほか、地域の方が元気になって“生きがい”をもって活動できるようにお手伝いできればと思っています。当日は、手料理を作って待っていてくれるとのこと。そんなひとときも楽しみです。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

感想・意見・要望はこちら。⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第88号は、3月12日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～86号）はこちら。

⇒ http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/merumaga_backnumber.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/zenkenjirei.html>

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ <http://www.pref.iwate.jp/~hp1595/kyousin/shoukaijirei.html>

～～～配信元～～～

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をあなたから作りだしてください。

～～～